

機械器具 16 体温計
管理医療機器 電子体温計（JMDNコード：14032010）

テルモ電子体温計C531

【警 告】

1. 子供だけで使わせないこと。

【本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性がある。】

【禁忌・禁止】

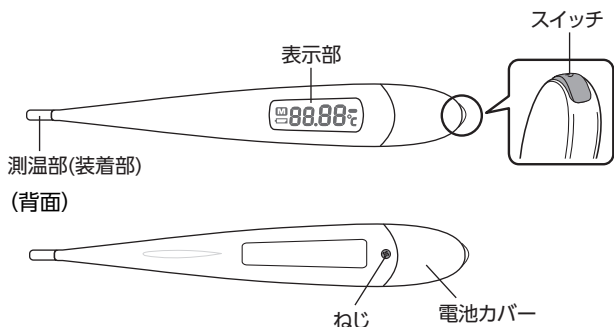
1. 引火性のある環境では使用しないこと。

【引火又は爆発の誘因となる可能性がある。】

**【形状・構造及び原理等】

<構造図>

- * ●本体
(正面)



●収納ケース



●表示部 ※説明のため、全点灯で表示

「前回値表示」マーク
前回値表示中に点灯する。

「予測」マーク
予測中及び予測値表示中に点灯する。

「電池電圧低下」マーク
電池電圧が低下すると、「電池電圧低下」マークが点滅する。さらに電池電圧が低下すると、他の表示が消灯し、「電池電圧低下」マークが点灯する。

体温値表示部

外観寸法：長さ129mm×幅17.6mm×厚さ12.6mm

質 量：約12.8g（電池含む）

付 属 品：EMC技術資料、取扱説明書/品質保証書、収納ケース
【機器の分類】

電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器

電撃に対する保護の程度による装着部の分類：BF形装着部

水の浸入に対する保護の程度による分類：IPX7

【電気的定格】

電 源：アルカリマンガン電池（LR41）2個（交換可）

電 圧：DC 3.0V

消費電力：約1.0mW

<原理>

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約2分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタ

ルで表示する。検温中は、平均約20秒（おおよそ16～25秒）で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると、検温開始から約5分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

【付帯機能】

初期動作確認機能：電源が入った時に所定の表示をし、
（告知機能）検温可能を告知する。

予測成立ブザー機能：予測成立時にブザーが鳴動する。
（告知機能）

定刻ブザー機能：検温開始から約5分後にブザーが鳴
（告知機能）動する。

エラー表示機能：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示
（告知機能）部に「E」を表示する。

使用温度範囲外表示機能：使用周囲温度が、使用条件の範囲外
（告知機能）の場合は、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。

体温値点滅表示機能：体温計の測温部が大ききずれた場合
（告知機能）等で正常な予測検温が行われなかった際は、その旨を体温値の点滅で告知する。

動作不能告知表示機能：体温計が動作異常を検知した場合は、
（告知機能）「EE」のマークを表示する。

電源入切機能：スイッチを押すごとに電源が入／切
（電源制御機能）する。

オートパワーオフ機能：検温せずに所定の時間放置すると電
（自動電源遮断機能）源が遮断する。また、検温終了後所定の時間放置すると電源が遮断する。

**【仕様に係る事項】

- ・最大許容誤差（温度指示精度）：
35.00℃以上～38.00℃以下：±0.05℃以内
32.00℃以上～34.99℃以下及び
38.01℃以上～42.00℃以下：±0.1℃以内
（標準温度計に対して）

- ・測温範囲：32.00～42.00℃

- ・使用条件：周囲温度 10～40℃

相対湿度 30～85%RH（ただし、結露なきこと）

周囲気圧 700～1060hPa

【使用目的又は効果】

<使用目的>

測温部を部位に接触させて、口腔（舌下）の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

**【使用方法等】

【測定方法】

1. スイッチを押して電源を入れる。
2. 舌下中央のすじの横に体温計の先端（測温部）をあてる。
3. 舌を下げ、口を軽く閉じる。
4. ブザーが鳴ったら体温計を口から取り出す。
 - ・予測検温
最初のブザーで取り出す（平均約20秒（おおよそ16～25秒）で測れ、「予測」マークが点灯している）。

取扱説明書を必ずご参照ください。

・実測検温

2度目のブザーが鳴るまで待って取り出す（検温開始から約5分で測れ、「予測」マークが消えている）。

より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。

5. 検温値を記録する（基礎体温の場合）。
6. スイッチを押して（1秒以上）電源を切る（電源を切り忘れても約3分後に自動的に電源が切れる）。
7. 本体表面を柔らかい布等で拭き取り、清潔にして収納ケースに収納する。

〔電池の取り替えかた〕

1. 小型のプラスドライバー（サイズ：0番用）でねじを外し、電池カバーを外す。
2. つまようじ等で使用済みの電池を取り出す。
3. 新しい電池を入れる。（2個同時交換）
4. 電池カバーを本体にはめ、ねじをしめる。
5. スイッチを入れ、正しく表示されることを確認する。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. 体温は時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しているので、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
2. 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ること。〔正確な検温ができないことがある。〕
3. 電源を入れるときや検温開始前に体温計の先端（測温部）に触れないこと。〔正確な検温ができないことがある。〕
4. 検温中は、体を動かしたり、体温計を動かしたりしないこと。〔体温計の測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。〕
5. 検温中は本体が動かないように、指で支えること。〔測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。〕
6. 検温中は会話や口での呼吸等、口を開けたり、体を動かしたりしないこと。〔外気で口内が冷えたり、測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。〕
7. くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端（測温部）を冷ましてから検温すること。〔そのまま測ると、正確な検温ができないことがある。〕
8. 取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読み取ること。〔予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。〕
9. 数値を読み取る際は、体温計の先端（測温部）に触れないこと。〔表示が変化することがある。〕
10. 表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおすこと。
11. 指定以外の電池を使用しないこと。〔故障の原因となる。〕
12. 電池の交換は同じ種類の新品の電池を2 個同時に行うこと。〔古い電池を混ぜて使用すると電池が発熱し、故障の原因となる。〕
13. 外したねじ、電池、電池カバーは子供の手の届かないところに置くこと。〔子供の手の届くところに置くと誤飲の可能性がある。〕
14. 電池の電解液が、目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けること。〔失明やけがのおそれがある。〕
15. 使用済みの電池を取り出す際は、つまようじ等を使い、金属製の棒等は使用しないこと。〔故障の原因となる。〕
16. 電池を取り出す際は、内部の部品に触れたり、引っ張ったりしないこと。〔故障の原因となる。〕
17. 電池のプラス面を上にして入れること。〔プラス、マイナスの向きを間違えて入れると故障の原因となる。〕
18. 電池カバーの内側についているゴムのリングをなくさないようにすること。また、電池カバーと本体の間に異物等が挟まらないように注意すること。〔隙間から水等が内部に浸入し、故障の原因となる。〕
19. 電池や電池カバーを無理な力で押し込まないこと。〔本体が破損する可能性がある。〕
20. 電池カバーを本体にはめる際は、ねじを強くしめすぎないこと。〔本体が破損する原因となる。〕

21. 電池を重ねて置かないこと。〔発熱、発火の原因となる。〕

22. 電池を火の中に投げ込まないこと。

** 23. 長期間使用しない場合は、電池は取り外して保管すること。

** 24. 電池の使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂したり、けがや本体の故障の原因となるおそれがある。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. 人の体温測定以外に使用しないこと。〔けがの可能性がある。誤作動や故障の原因となる。〕
2. 測定結果の自己診断、治療は行わないこと。〔自己診断、治療は危険である。〕
3. 取扱説明書を確認の上、使用すること。
4. 口中以外（ワキ下等）で使用しないこと。〔けがの可能性がある。正確な検温ができない。〕
5. 使用の前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないこと。〔検温値の異常や、けがの可能性がある。〕
6. 破損したものは使用しないこと。〔検温値の異常や、けがの可能性がある。〕
7. 強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。〔破損や故障の原因となる。〕
8. 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないこと。〔誤作動や故障の原因となる。〕
9. 電池交換で電池カバーを外した際、本品に液体や異物が入らないように注意すること。〔液体や異物が入ると内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因（検温値の異常を含む）となる。〕
10. 活性ガス（消毒用ガスも含む）環境、多湿環境等や塵埃、噴霧、腐食性ガスの発生する場所で電池交換は行わないこと。〔内部の電子部品に影響を与え、劣化や損傷により故障の原因となる。〕
11. 本品は、振動の発生する場所で使用しないこと。〔本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。〕
12. 分解、修理、改造は行わないこと。〔破損や故障の原因となる。〕
13. 本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないこと。〔表示部の破損や故障の原因となる可能性がある。〕

** 【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

** 暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。

保管条件：周囲温度 -10～50℃

相対湿度 30～95%RH（ただし、結露なきこと）

周囲気圧 700～1060hPa

〔保管上の注意〕

日光や紫外線等の強い光が当たる場所に保管したり、長時間放置しないこと。〔外装の変色、劣化や故障の原因となる。〕

〔電池について〕

- ・約1500回（予測検温）使用することができる。実測検温では、約450 回連続測定できる。
- ・付属の電池（本体に装着済み）は、お試用であり、寿命が短い場合がある。
- ・使用済みの電池や体温計を廃棄する際は、各自治体のルールに従って適切に廃棄すること。

＜耐用期間＞

耐用期間：4.5年（自己認証による）

【保守・点検に係る事項】

〔保守点検上の注意〕

1. しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入ること、「電池電圧低下」マークが点灯していないことなど）を確認してから使用すること。

2. 本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ること。
3. シンナー等の有機溶剤、ポビドンヨードでは拭かないこと。使用可能な消毒液例は以下のとおりである。なお、希釈率はその製品の電子添文に従うこと。
クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物
[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となる。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがある。]
4. 消毒液等に水没させないこと。消毒する際は、先端部のみを必要な時間だけ浸し、その他の部分は脱脂綿等で拭くこと。[本品の防水は、薬品での防水は保証しておらず、故障の原因となる。消毒に必要な時間については消毒液の電子添文を参照すること。]
5. ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損や故障する可能性がある。]
6. 熱湯消毒（50℃以上）しないこと。[故障の原因となる。]
7. クレゾールは使用しないこと。[故障の原因となる。]
8. 超音波洗浄しないこと。[故障の原因となる。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-008-178 テルモ・コールセンター

